



## 記者手帳

見えるような感じだ。それにしても、昨年の夏までは、土木や建設の資材置き場から銅線やアルミ建材、ガードレールな

人もいた。銅線は、大きく利益を生み出すスクラップ資源の1つ。昨年の夏などは、銅の建値が1トン当たり100万円に迫る勢いで、何度も100万円を超えていた。と

銅線の建値が35万円を超えた。3月に入り、あっさりと40万円ラインを突破すると、3月の最終週には43万円まで伸びてきた。4月には第4週目に若干下がったが、50万円のライン

的に表れ始め、都市部での地下鉄や公共事業の好調ぶりがあげられる。円高に振れると輸出は厳しくなるように不安定な要素がたくさんあることは否定できないが、日本国内の自動車も家電も省

鉄非鉄のス

クラップがじわりと右肩上がりになって

# 再生資源に復活の兆し

エネ車の推進やエコポイントといった政

きた。本格的な強含みとはいえないまでも、中国をはじめアジアの需要は確かに復活の兆しを見せており、真つ暗なトンネルのはるか先に出口の明かりがかすかに

ど鉄製やステンレスなどの盗難が頻繁に発生していた。鉄製の門が夜のうちに盗まれているいたり、マンホールのはるかにも盗られ、知らないで穴に落ちて大怪我をした

ところが今年の1月には、34万円を割り込み、非鉄のスクラップ業界に震撼が走った。変化の兆しが現れ始めたのは、今年の2月になってからだ。

を突破しキープしている。アルミも亜鉛もニッケルもシワリ上がりを見せており、強含みで推移する様相だ。背景には、中国の内需拡大方針が具体

府の日本版ニューデール政策の重要ポイントになっている。薬でいえば「痛み止め」程度かもしれないが、効き目が出てくることを期待したい。(※)